

# 大阪大学 グローバル人材育成セミナー開催

## 技術・人材高度化に向け意見交換

大阪大学では、接合科学研究所と言語文化研究科とが連携し、広域アジア地域を対象とした接合科学に関する新たな接合技術基盤の構築、グローバルネットワークの構築、実践型グローバル人材育成を目的とし、文部科学省特別経費プロジェクトである「広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業」を展開。11月21日、同



南センター長



田原氏

大学広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター、日本学生支援機構主催のセミナー「海外から見る日本のグローバル人材育成―世界の大学やグローバル企業の声から学ぶ―を東京・江東区の東京国際交流館で開会し、約100人が参加した。

開会に先立ち、同センターの南「三吉センター長は「優れたもの



木佐氏をMCに迎えたパネルディスカッション

られる。グローバル化が加速する昨今では、専門の分野を横断的に俯瞰し、異文化や多様な性への理解に富んだ人材に対する期待が高まっている」と、同事業の背景を説明したうえで、「2013年度から5カ年計画で開催する本事業にとって、今

年度は区切りの年。これまで積み上げた様々な学びと経験を共有し、意見交換を行うことで、次の展開に繋げたい」と語った。

基調講演では、南洋理工大学キャリアアタッシュメントオフィス（シンガポール）のローウィー・ウィー部長が、シンガポールにおけるグローバル化の現状について解説。

そのほか、千代田化工建設の井川玄氏が「デジタル化の大波の中で生き抜くグローバル人材となるために」をテーマに講演を行った。

また特別講演では、ジャーナリストとして国内外を股にかけ活躍する由原総一明氏が、「時代を読む」と題し、

各国の情勢を説明したうえで、今後の日本における人材育成に関する見解などを語った。午前中のパネルディスカッションでは、フリーアナウンサーの木佐彩子氏をMCに迎えて、「広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業」の一環として実施する「カッピング・インターンシップ（CIS）」（日本を含むアジアの文・理系学生が、日系企業での協働を行う人材育成研修）に参加した学生をパネリストに、「CISに参加して気づいた点」について討論を実施した。

出典：溶接ニュース 2017年12月12日  
産報出版(株)から掲載許諾済み